第 14 回　東大和病院(東大和地区)　災害訓練(トリアージ)の参加報告書

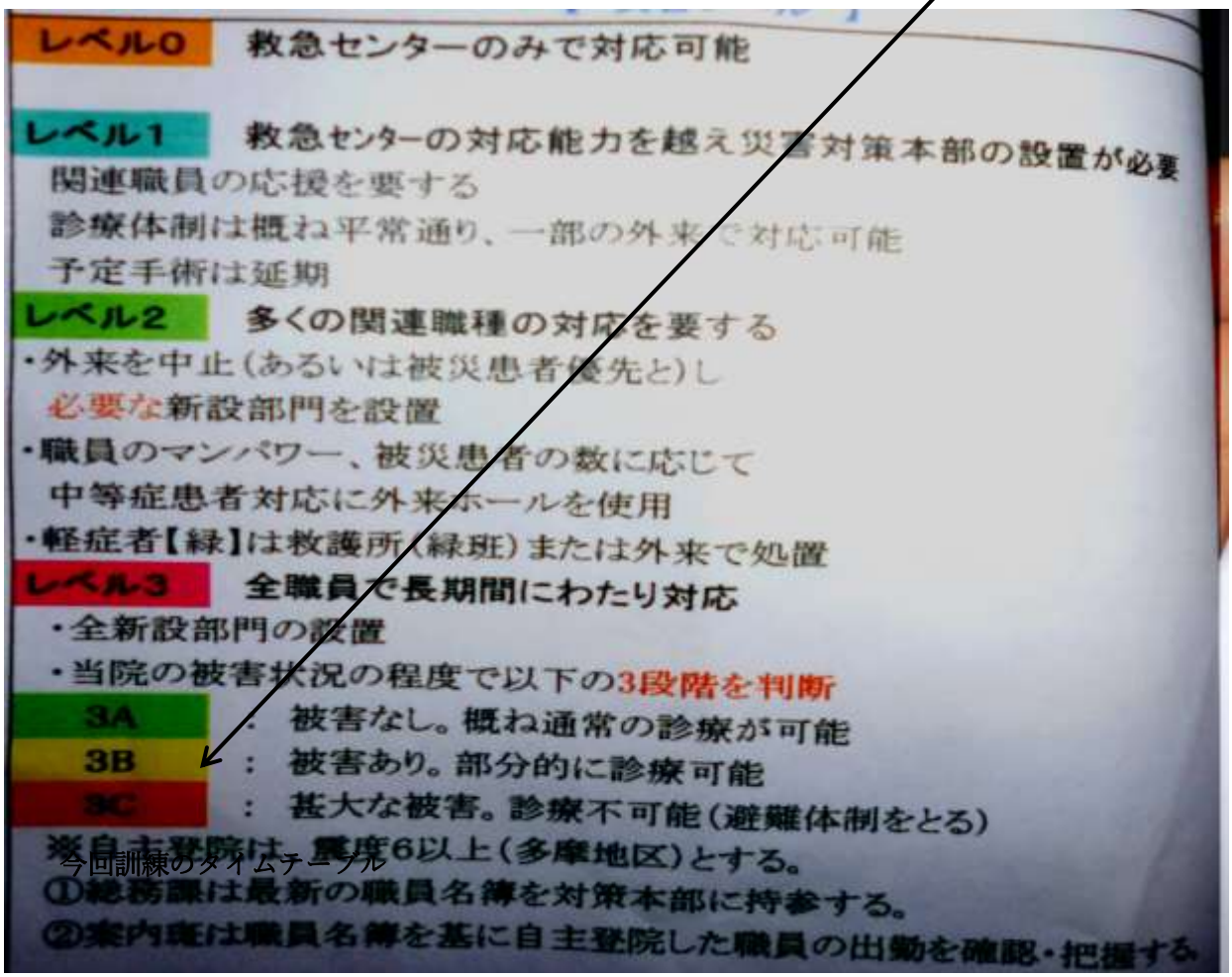
南街・桜ヶ丘地域防災協議会本部
平成３０年１１月１０日

平成３０年１１月１０日に平成３０年度大和会東大和地区（東大和病院、東大和ケアセンター及び東大和病院付属セントラルクリニック）災害訓練が、東大和市役所及び東大和医師会の協力により実施され、当協議会からは模擬傷病者として４名(第二小学校ＰＴＡ；４名)及び見学者として１名が参加し、貴重な体験をさせて戴く事が出来ました。

災害発生時地域の拠点病院として我々住民にとって極めて重要な病院ですので、今後もこの様な訓練には積極的に参加させて戴きたいと思っております。

患者受け入れ体制の確保

災害発生時病院での対応レベルが下記の通り区分されており、今回は１３時３０分に震度６弱の地震が発生し、病院全施設の被災状況を確認の結果１４時００分に「レベル３B」で対応する事になりトリアージに向けて病院全体が準備体制の作業を開始し、１４時３０分に体制が整い患者の受け入れが開始され、１６時００分に訓練が終了致しました。



今回訓練のタイムテーブル

今回の災害訓練は基本的に事前準備をせずに実施し、地震発生後、「対策本部立ち上げ～診療体制の開始～訓練終了」迄の大凡のタイムテーブルは以下の通りでした。現実的にも診療体制の確保にはこの程度の時間が必要と感じました。

13.30　（45 分間）　14.00　　14.30　　16.00

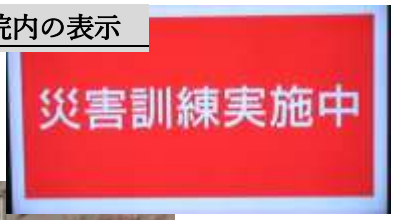
地震発生（即対策本部立ち上げ）
● 各部門損害状況把握後本部へ報告
● 全部門の被災状況把握後
● 院長がレベル３Ｂ判断）

レベル３Ｂ対応の館内放送
● 各部門診療体制の開始

準備完了
● 診療開始（傷病者のトリアージ開始）

訓練終了

病院内の表示



東大和病院正面玄関

患者役の皆様の準備／待機状況

患者家族役の皆様

発災後の災害対策本部の作業状況

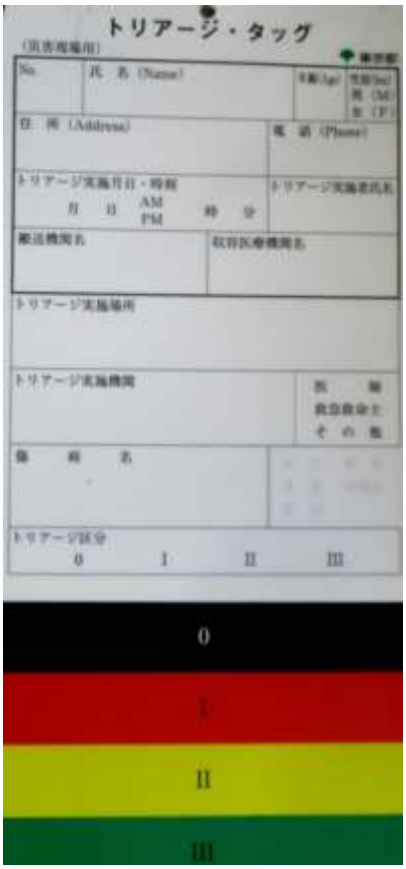
各箇所からの災害状況の報告

東大和病院付属セントラルクリニック

訓練準備／訓練開始状況

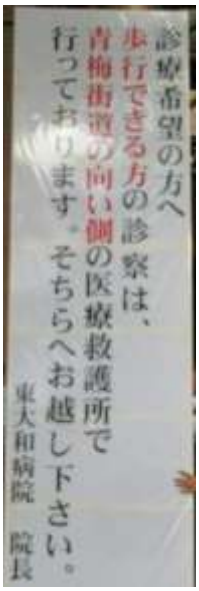
案内班の作業手順確認

使用したトリアージ・タグ



東大和病院のトリアージ状況

患者受け入れ開始



患者の腕にトリアージ・タグの取り付け

赤診療班入り口前の患者の入室待ち状況

救急者からの患者搬入

黄色診療班の患者受け入れ／診療状況

診療状況

赤診療班の診察状況

赤診療班の診察状況

帰宅困難者ブースの作業状況

黒診療班の作業状況

霊安室への搬送

軽傷入院ブースの作業状況

赤／黄診断者に対しての放射線での撮影ブース

患者役の方の訓練への出発確認状況

案内班の訓練状況

患者家族からの状況聞き取り

進捗状況を表示

患者家族の待機状況

訓練終了後の患者役の皆様集合

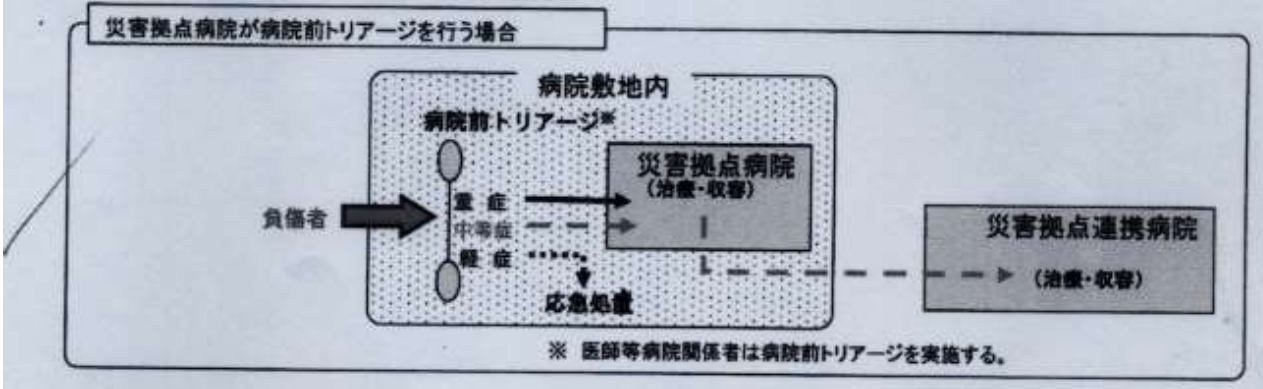
階段の使用方法指定の指示

H30年 災害訓練概要

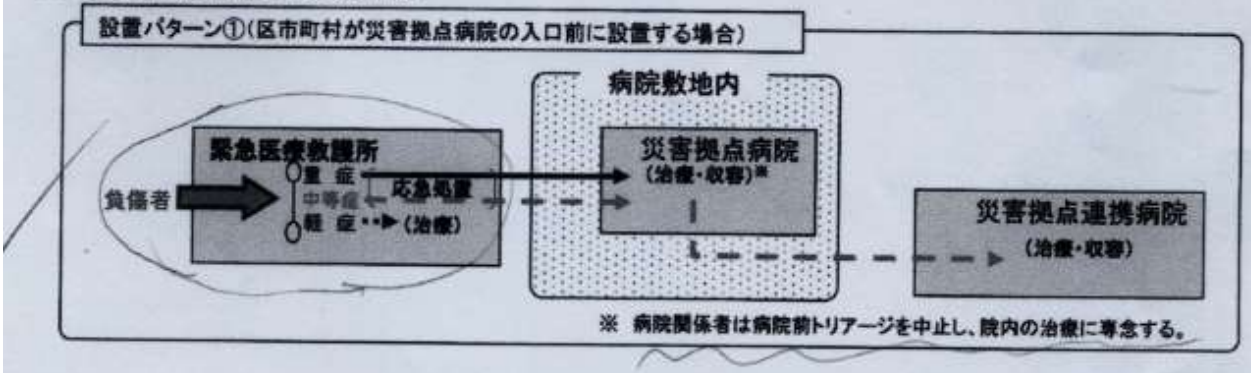
実施日程	平成30年11月10日(土)　13時30分～16時00分
訓練場所	東大和病院、東大和ケアセンター(一部)、東大和病院附属セントラルクリニック
参加団体	東大和市医師会(救護所対応・通信訓練)、東大和市役所(通信訓練)、東大和市薬剤師会、東大和市歯科医師会、北多摩西部消防署(救急車搬送)、東大和市自治会(患者役)
重点目標	1.的確なトリアージの実施 2.救急外来からの重症患者の流れの確認 3.病棟の空床確保、増床体制の構築 4.セントラルクリニックと東大和市、東大和市医師会の連携確認
災害想定 (レベル3B)	1. 平日の日勤帯に、震度6弱の地震が発生 2. ライフラインの状況設定 ・水:使用可　・電気:非常用電源のみ使用可　・都市ガス:使用不能 ・エレベーター、電カル:使用不能　・外線:使用不能　・災害優先電話、PHS、内線:使用可 3. 建物の被害は限定的。各部署で棚の物品が散乱 病棟でけが人が数名発生している状況。
事前準備	1. バーコードを使用した診療情報管理の方式を構築 2. 事前勉強会(医師・その他の職種)、患者役説明会等を実施
訓練内容	1. 初動の流れをアクションカードに沿って実施されているか検証 ・患者・職員の安否確認　・被害状況の確認　・対策本部への迅速な報告 ・院内の状況把握と災害レベルの決定を短時間で行う 2. エレベーター内の閉じ込め発生→対策本部へ的確な状況報告を行い、迅速に対応する 3. 新設班立上げ、負傷者のトリアージと災害時診療を開始 ・災害対策本部は新設部署への派遣医師を決定し指示する ・各部署所属長は、決められた派遣部署への応援要員を決定し、派遣する ・トリアージ方式:二次トリアージPAT法 ・帰宅困難者を院内待機場所(外来処置室前)へ誘導 4. 容態が安定している入院患者を2階内視鏡室前へ移動し、空床を確保する ・移動患者の選定と決定プロセスの確認と確実な実施 5. バーコードを付したトリアージタグの運用
医師会、東大和市との連携	東大和市医師会、セントラルクリニックと合同訓練(通信訓練・傷病者対応訓練)。
救急隊との連携	救急車にて、重症者を病院へ反復搬送する。
当日のスケジュール	13:30　震度6弱の地震発生 14:00頃　対策本部より災害レベルと対応についての発表 14:20頃　診療体制の準備(新設部署準備)→傷病者受入 16:00　訓練終了

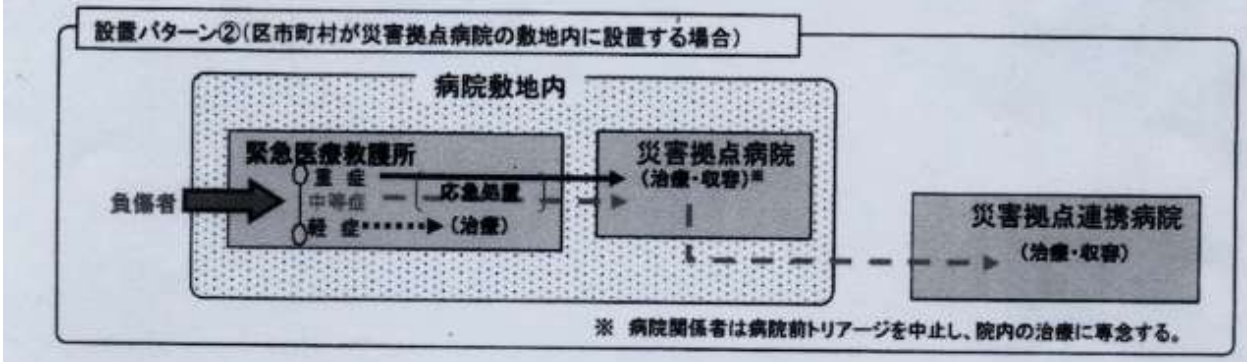
《緊急医療救護所の考え方 ―災害拠点病院の場合― 》

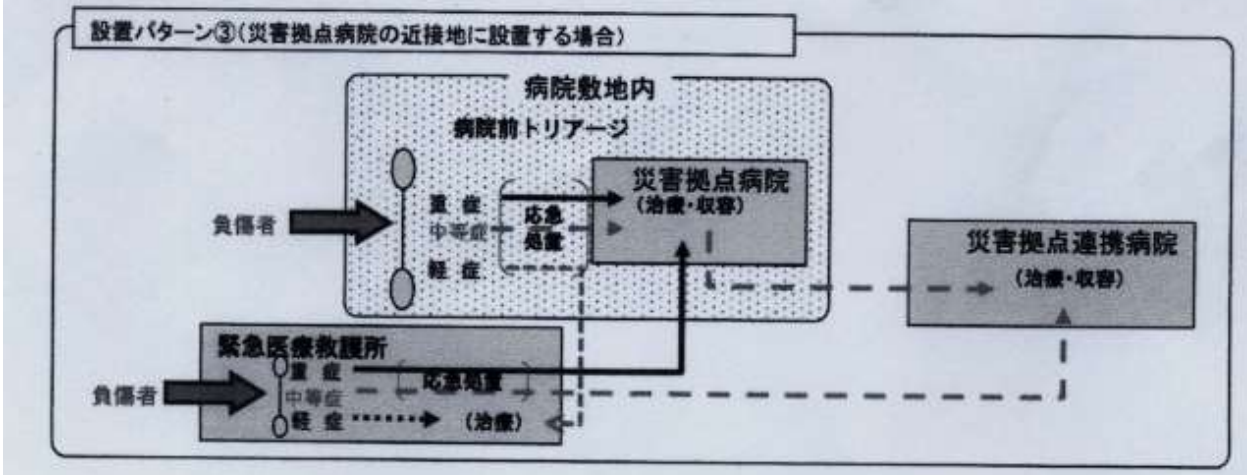
1 緊急医療救護所の設置前(発災直後)

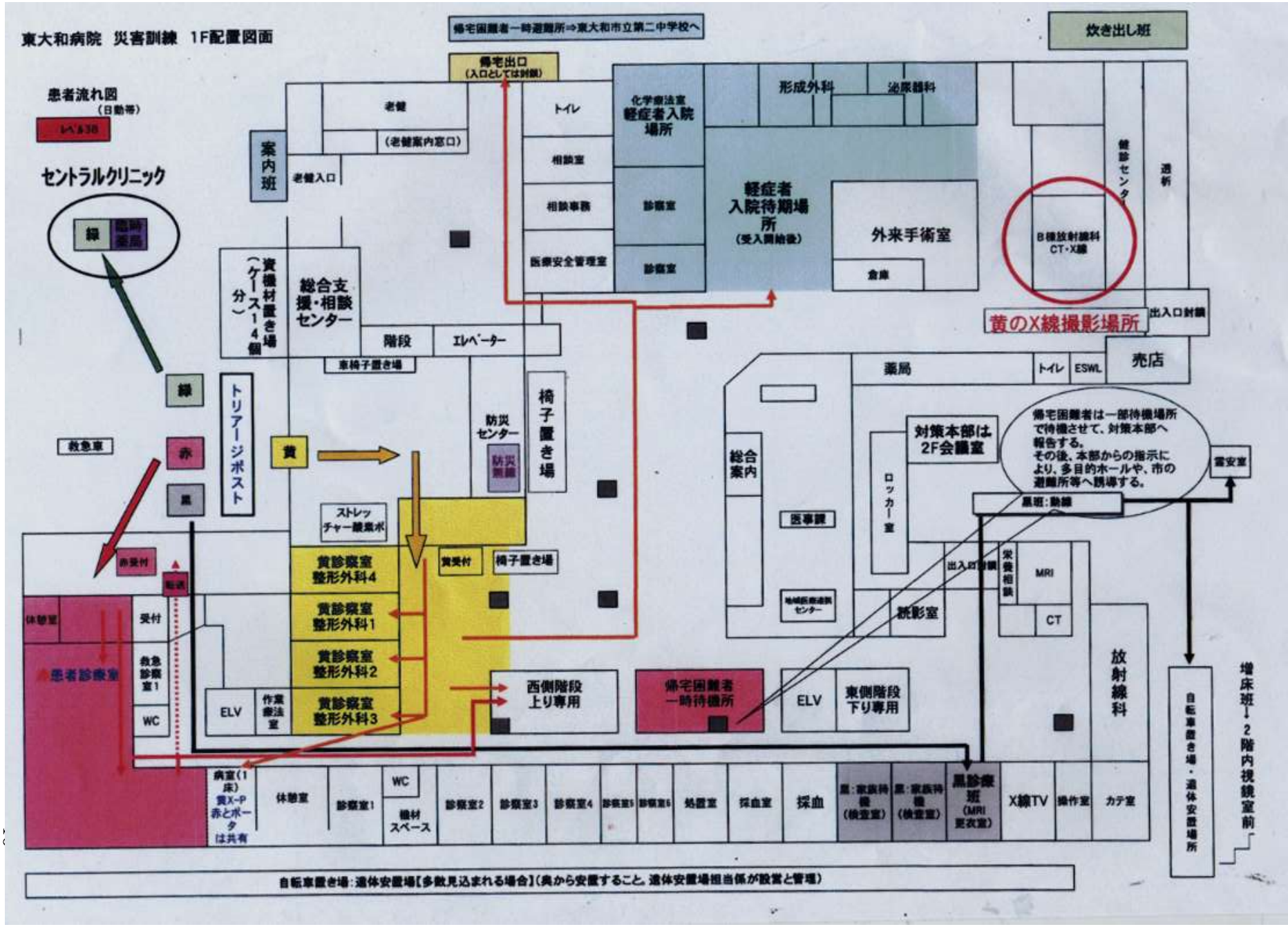


2 緊急医療救護所の設置後

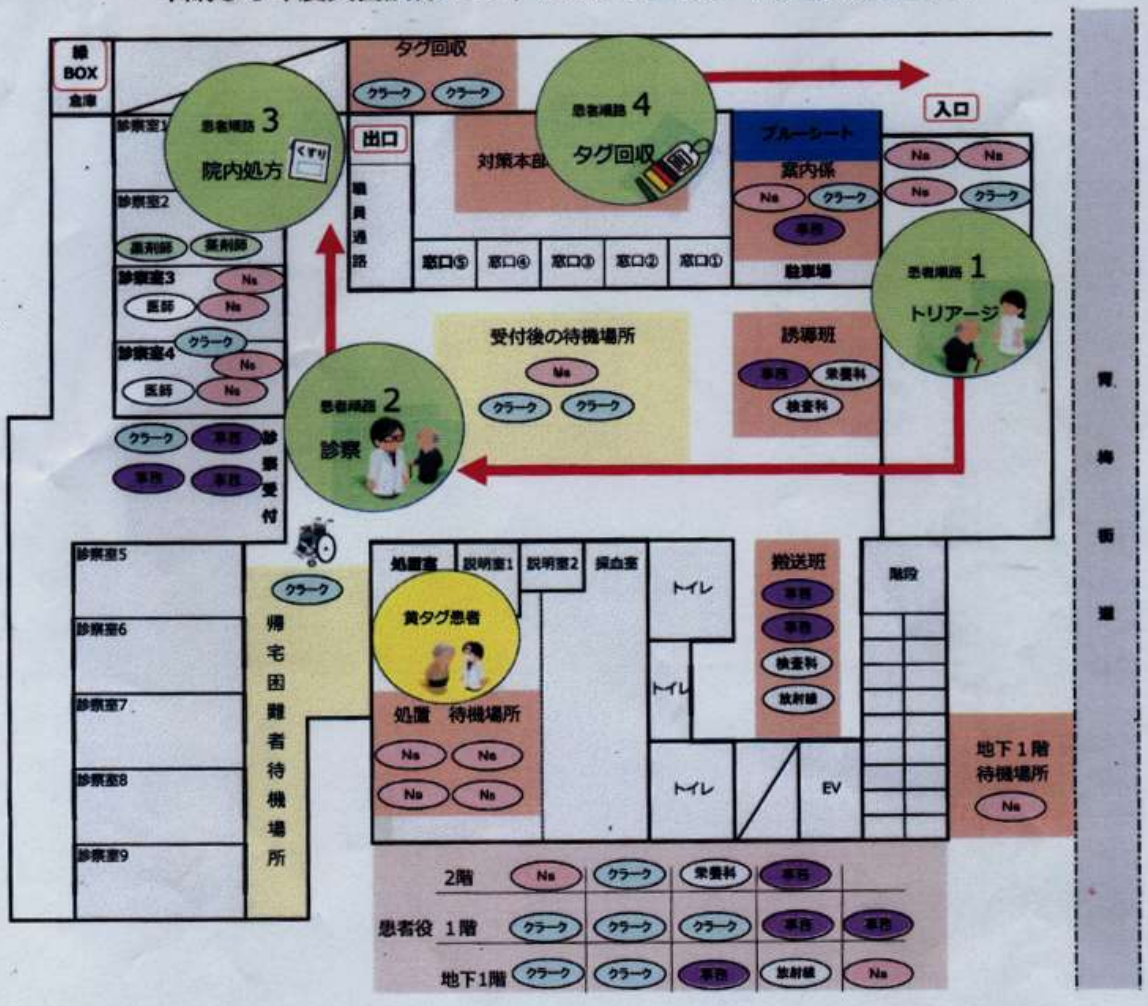







東大和病院 災害訓練 1F配置図面
帰宅困難者一時避難所⇒東大和市立第二中学校へ
炊き出し班
患者流れ図
（日動帯）
レベル3B
セントラルクリニック
緑
臨時薬局
帰宅出口
（入口としては封鎖）
老健
（老健案内窓口）
案内班
老健入口
トイレ
相談室
相談事務
医療安全管理室
化学療法室
軽症者入院場所
診察室
診察室
形成外科
泌尿器科
軽症者
入院待期場所
（受入開始後）
外来手術室
倉庫
健診センター
透析
B棟放射線科
CT・X線
黄のX線撮影場所
出入口封鎖
資機材置き場
（ケース14個分）
総合支援・相談センター
階段
エレベーター
車椅子置き場
緑
トリアージポスト
黄
防災センター
防災無線
椅子置き場
薬局
トイレ
ESWL
売店
対策本部は2F会議室
帰宅困難者は一部待機場所で待機させて、対策本部へ報告する。
その後、本部からの指示により、多目的ホールや、市の避難所等へ誘導する。
黒班：動線
雷安室
総合案内
ロッカー室
医事課
地域医療連携センター
出入口封鎖
栄養相談
MRI
CT
読影室
放射線科
救急車
赤
黒
ストレッチャー酸素ボ
黄受付
椅子置き場
黄診察室
整形外科4
黄診察室
整形外科1
黄診察室
整形外科2
黄診察室
整形外科3
赤受付
転送
休憩室
受付
救急診察室1
WC
患者診療室
ELV
作業療法室
西側階段
上り専用
帰宅困難者
一時待機所
ELV
東側階段
下り専用
自転車置き場・遺体安置場所
増床班→2階内視鏡室前
病室（1床）
黄X-P
赤とポータは共有
休憩室
診察室1
WC
機材スペース
診察室2
診察室3
診察室4
診察室5
診察室6
処置室
採血室
採血
黒：家族待機（検査室）
黒：家族待機（検査室）
黒診療班
（MRI更衣室）
X線TV
操作室
カテ室
自転車置き場：遺体安置場【多数見込まれる場合】（奥から安置すること。遺体安置場担当係が設営と管理）

平成３０年度災害訓練 セントラルクリニック【設置状況確認図】



【職員の動き】
1、院内放送で「災害診療立ち上げの指示」が入ったら、各自担当する班の集合場所に集合する。その後診療が開始できるよう準備を行う。
2、各班毎のアクションカードに則り行動する。

【患者の流れ】
1、セントラル入り口にて看護師によるトリアージを実施。トリアージタグを患者に装着後院内へ。
2、診察室3、4を使用し、診察を行う。
3、処方がある患者は臨時薬局（診察室２）で薬を受け取り職員通路出口へ。処方がない患者は診察後そのまま出口へ。
4、黄タグ患者が来院してしまった場合トリアージポストから搬送班にて処置室へ。医師報告し、処置室にて診察していただく。
5、一時的な帰宅困難者に関しては診察室7~9の前で一旦待機とする。帰宅不可能なケースに関しては地下一階を帰宅困難者待機場所とする。
※患者の基本的な流れは一方通行とする

【トリアージタグの流れ】
1、自身での記入が可能な患者に関してはトリアージポストにてトリアージタグを記入していただく。
2、トリアージ実施。トリアージタグを患者に装着する（①右手首②左手首③右足首④左足首⑤首　※衣類には装着しない）
3、トリアージタグ装着後、診察受付にて1枚目を切り取りその情報をもとに紙カルテを作成。1枚目はタグ回収バッグに入れる。
4、診察室で医師により症状/傷病名、トリアージ区分を記入。その後2枚目を切り取り紙カルテにホチキスで留める。
5、3枚目のトリアージタグは職員通路出口で回収する。処方がある患者は臨時薬局で回収する。
6、案内班は定期的に診察受付のタグ回収バッグを取りに行き、その情報を元に案内班掲示板へと記入。記入が済んだらCC対策本部に提出する。
7、タグ回収班は出口、臨時薬局で回収したタグを定期的に案内班に持って行く。案内班はその情報を掲示板へと記入する。

【その他】
1、タグカラーが緑から変更となった場合や転送の場合、各班よりCC対策本部に連絡する。CC対策本部より東大和対策本部へと受け入れの依頼をを行う。
2、物資、人員、情報等が足りない場合も、各班よりＣＣ対策本部へ連絡。必要に応じてCC対策本部から東大和対策本部へと依頼する。